

「日本私立大学連盟 平成 23 年度 F D 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」

場所：浜松グランドホテル

期間：2011 年 8 月 8 日～8 月 9 日

## 1. 研修の内容

研修は以下の流れで進められた。

### 1 日目

#### 全体説明（30 分）

①大学教員の職能開発と FD とは何か、②本ワークショップの目的、③模擬授業の趣旨、④留意点などが説明された。

#### パネル・ディスカッション（90 分）

昨年度の参加者 3 名がパネラーとなり、本 WS の意義、成果、各大学に戻っての実践例などが話された。その後、フロアとの質疑応答がなされた。その目的は、① WS の全体像のイメージ、②大学または分野ごとの教育目標の多様性の理解、③参加者自身の職能開発について考えることであった。

#### 模擬授業の説明（30 分）

次の 4 点が説明された。①模擬授業の目的、②時間・形式等の概要、③意見交換の進め方と質疑応答における留意点、④全参加者が作成する「模擬授業ワークシート」の各記載項目についてと作成上の留意点であった。

#### グループ討議（80 分）

本討議の目的は、①翌日の模擬授業に備えたアイスブレイク、②参加者全員での課題の共有、③発表順序の決定であった。

#### 授業案作成（80 分）

事前の説明を踏まえ、各自が「模擬授業ワークシート」を用い授業案を作成した。

### 2 日目

#### 模擬授業（計 300 分）

各参加者が 15 分間の模擬授業を行い、その後 15 分間の意見交換がなされた。意見交換では、まずよかった点が指摘され、その後、課題および授業改善の手がかりを全員で討議した。

#### 全体ふりかえり（75 分）

各グループから 1～2 名が模擬授業の様子を報告し、全体で質疑応答がなされた。それにより、各グループでの発見や課題が全体で共有され、それらを踏まえて最後に本 WS の総括がなされた。

## 2. 研修の成果

本研修の成果としては、1点目は、大学教員の職能開発およびFDの定義、対象とする範囲、現在の動向、課題等の基本的な知識を得られたことである。全体説明やふりかえりの際には、参加者から各大学が置かれた社会的状況、背景を反映したFDについての課題や先進的な取り組みが述べられ、基本的な認識が深まった。

2点目は、多くの異なる大学、異なる分野の教員とFDの文脈のもとで交流できたことである。1泊2日の研修期間があったことで、公のプログラム以外にも、他大学の教員と教育活動のユニークな実践例や専任教員の職能に関わる多様なトピックについて情報・意見交換ができ、「大学教育の共通基盤とは何か」ということを具体的に考える機会をもてた。

3点目は、模擬授業に関して、所属したグループには同じ分野と他分野の教員の両方がおられた。そのことで、自分の専門分野でよく用いられる、定番的な授業スタイル以外の授業法をいくつか目にする事ができた。また、それぞれの授業法の長短について多角的に議論できたことで、今後、授業をするうえでの選択肢が広がったと考える。

4点目は、模擬授業に対する意見交換の中で、参加者が共通して学生の理解を促すと感じたポイントがいくつか得られた。また、それらに着目して次の模擬授業を受けるというサイクルを連続的に繰り返せたことで、その効果をより明確に比較し、確認することができた。授業を自己評価する際のポイントとなる指標を体験的に得られたことは有益であった。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

今回の研修の成果を踏まえ、今後、授業を改善するにあたっては、次の4点に取り組みたい。

1点目は、板書のテンポや立ち位置、話すスピード、声の大きさのメリハリなど、少しの変化で学生の理解を促進しうる要素についてはより意識的に実行し、学生の反応を見て工夫を続けていくことである。

2点目は、講義形式を基本とする授業の中でも、目的に応じてロールプレイやグループ討議といった学生相互のやりとりを活かした授業法、また実習的な要素を採り入れていくことである。

3点目は、基礎原理や概念を教える際に、学生がより身近に感じたり、イメージを広げやすい材料、テーマは何かという点で、授業の内容を改良することである。

最後に4点目は、今回得たFDの基本的な知識、実践事例を参考に、個々の担当科目と大学の理念、学部の教育方針、コースの教育目標がより有機的に関連するようシラバスを洗練することである。

学部長	FD委員長	FD委員会	企画・広報課長	係